

(社説) 滝山病院事件 密室の虐待 徹底解明を

2023年3月5日 5時00分



患者暴行事件が起きた滝山病院=2月25日、東京都八王子市犬目町

患者の命を預かる病院にあるまじき虐待の一端が明るみに出た。一体いつから、どれだけの医療従事者が関わっていたのか、捜査・行政当局は徹底解明しなければならない。

東京都八王子市の私立精神科病院「滝山病院」をめぐる患者虐待事件である。警視庁は先月14日、入院患者の頭をたたいた暴行容疑で看護師の50代の男を逮捕した。この男を含む看護師ら4人が昨年1月以降、複数の患者に暴力を繰り返した疑いがあるとみて調べている。

患者側の代理人弁護士が調査のうえ刑事告発し、ようやく事態は表沙汰になった。さらに別の看護師らも関与した疑いがあるとして、追加の告発を検討しているという。被害患者は20人前後いる可能性があるといい、「病院全体に蔓延(まんえん)しているのでは」との指摘は重い。

協力者から入手したという院内の動画・録音には、「腕の骨折るぞ」「口の利き方に気をつけろよ」といった暴言とともに、殴ったり脅したりする様子が克明に記録されていた。ベッドの患者が「怖い」「痛いよ」などと声をあげても、そばにいながら制止しない別のスタッフの姿も映っていた。

退院患者に占める死亡退院率の高さも指摘される。都の調査では、この病院の19年以降の毎年6月分を累計すると、46人中31人(67%)。一方、厚生労働省の20年の全国調査では1割未満だ。全国から身寄りのない患者を受け入れ、透析を受ける重篤な高齢者も少なくなかったというが、適切な治療がなされてきたかの調査も不可欠だ。

指導・監督にあたる都の対応も厳しく問われる。昨年5月以降、虐待の情報を得て病院側から4回も聞き取り調査をしながら実態を把握できなかったという。なぜ見逃したのか。病院の運営・管理体制はどうなっていたのかを含め、全体像を明らかにする必要がある。

朝倉重延院長は日本精神科病院協会の調査に対し、一連の暴行などは「寝耳に水だ」と釈明したという。埼玉県内で別の病院長だった01年、患者の不当な拘束や診療報酬の不正請求などが相次ぎ発覚し、廃院となって保険医の資格も取り消された。厚労省は再登録に際してどう判断・指導したのか、全容を解明して公表する責任がある。

かねて精神科病院は「密室医療」の危うさが指摘され、透明性の向上が求められてきた。折しも来月からは、患者の権利擁護や支援体制整備のための改正関連法が順次施行され、虐待の通報や防止の取り組みも病院側に義務づけられる。医療と行政の課題を考えるうえでも、今回の事件の検証は欠かせない。

有料会員になると会員限定の有料記事もお読みいただけます。

[今すぐ登録\(1カ月間無料\)](#) [ログインする](#)